

キーワード：移民，コミュニケーション，外国語学習，受入社会，

一般に国際労働移動において受入国の言語習得を余儀なくされる。移民は外国語習得に多額の投資と多大の努力を行うが，その習得成果は外国語に関する個人の知識や能力だけでなく，学習環境や個人が置かれた社会環境に付随するさまざまな条件により左右される (Kida, 2003)。この種の研究は，これまで応用言語学や社会言語学で多くの研究がなされた成果が多数出版されており，ことばの問題は移民研究において不可避な課題であると認識されている

(Faraco & Kida, 2001, 2008; Kida & Faraco, 2002, 2003; Kida, 2005b)。ことばはコミュニケーションの道具である以上に，ある社会や文化圏のなかで規定されている社会文化的な所産である。ある文化圏に属する人が別の文化圏に移動するということは，その文化とともに移動することに他ならない。この時に観察される変化やその変化から類推される文化変容の条件・制限には，ある論理や法則があろう。グローバル化する世界の中にある今日，移民などによる人の移動やメディアの発達のおかげで異国の社会文化的事象が身近になり，文化均等化が進んでいる。この中で見られる文化変容のプロセスを理解することは，将来変化するものと不変のものを見極めながら明日の文化様相を見通すことができるかもしれないし，また，このプロセスの理解によって，一文化の歴史が辿ってきた道を振り返りながら，現在を見つめ直すことも有意義だと思われる。また，ことばがもたらす社会問題も現在において顕在化しており，問題の所在を明確にすることが求められている。このような観点から，本発表では，移民のコミュニケーション問題に焦点を当て，移民の言語習得の変遷を通して，受入社会や移民がどのような問題を抱えているのか，またグローバル化が移民問題にどのような影響を与えているかという課題を考察するために，独自に収集したデータを分析した研究をひとつの事例として報告する (Kida, 2005a)。

主な研究対象はフランスに滞在する日本人である。比較対象として他の外国人 (デンマーク人、アメリカ人、アルゼンチン人、スペイン人だけでなくフランス人) もデータに含まれる。この研究の特色は，言語よりも非言語の変遷に着目して分析を行ったことである。移民が外国語を習得する過程で，どのように非言語が変化するか，その変化の中で何が読み取れるか，どのように社会問題や文化変容と関連付けることができるか，というのが研究課題である。非言語を扱った研究は，古代ローマ時代のキケロやクゥインチリアヌスに遡る一連の弁説学や、文学、哲学などの中近世の文芸分野、文化人類学、民俗誌学、芸術史、異文化コミュニケーション、比較文化論、視覚記号論、心理学、社会言語学、第二外国語獲得、外国語教育などの現代の学術分野にまたがる (Kida, 2008)。本研究に直接関連する先行研究として，人類学者エフロン (Efron, 1972) が行ったニューヨークのユダヤ人とイタリア人移民の非言語研究を挙げることができる。

本研究は非言語というあまり例のないデータに基づいているので，独自の分析方法を考案する必要がある。本発表ではこの分析方法を簡単に紹介し (Kida, 2006, 2009)，どのようなデータを採取したかにも触れる。被験者の個人情報として言語能力や滞在年数，年齢，使用言語，出身地域などを含む。データは400ページを超える言語コーパスや原データの音声映像データ，その他被験者の個人的な動機，外国社会への同化問題，過去の海外経験などに関する体験談・証言を収集した。これを統計により分析し，解説を試みたものが本研究の主旨である。

本発表ではこの研究結果に照らして，次の点を考察する：

- 1) 外国語を習得する移民に非言語の変遷は見られるか？言語能力や滞在年数などとの関係があるか？
- 2) 移民の社会生活と非言語の変遷との間に関係はあるか？
- 3) 移民の出身地は非言語の変遷にどのように影響するか？

- 4) 移民の非言語研究が、受入社会に何を示唆しているか？
- 5) グローバル化時代の文化変容をどのように理解すべきか？

結果として、ジェスチャーを通しての見られる外国人の非言語文化の変化は、実質的数量的レベルでも確認される。この変化の度合いは一般に言語運用能力や現地での社会経験年数に反映している。しかし、説明しきれない例外が散見され、外国社会へ溶け込めない自分や文化的拒絶などに由来する心的問題や、出身国での過去における外国文化との接触経験が影響している様である。本研究の結論は以下のようにまとめられる。1) 外国人の非言語の変化は習得された言語運用能力に比例するが、言語と非言語は異なる変遷論理を持つ、2) 非言語文化の変化には受入国の文化との接触が不可欠である、3) 外国生活に由来する社会心理的要因が文化的要素の習得に影響し得る、4) これら個々の変遷の総体が、国や地域などの社会の中で変容する文化を構成し、その変化の方向性を決める。このように、ある文化的要素が他の文化圏に移動する時の変化は、内的要素や外的要素の複雑な絡み合いのなかで生まれ、その総体は時を経て現前する文化を生成している。

参考文献

- Efron, David (1972). *Gesture, race and culture*. The Hague, Mouton.
- Faraco, Martine, Kida, Tsuyoshi (2001). Transfer and cross-cultural variation of strategic gesture and speech in L2 discourse. In Christian Cavé, Isabelle Guaïtella, Serge Santi (Eds.), *Oralité et gestualité. Interaction et comportements multimodaux dans la communication*. Paris, L'Harmattan : 537-542.
- Faraco, Martine, Kida, Tsuyoshi (2008). Some remarks on gesture in second language classroom. In Steve McCafferty, Gale Stam (Eds.), *Gesture. Second language acquisition and classroom research*. London/New York, Routledge : 280-297.
- Kida, Tsuyoshi (2003). Système, pratique, valeur : culture d'écriture japonaise et prise de notes. Poster affiché au colloque "L'écriture dans tous ses états, Approche en sciences cognitives", mai 2003, Université de Provence, Aix-en-Provence.
- Kida, Tsuyoshi (2005a). Appropriation du geste par les étrangers: cas d'étudiants japonais apprenant le français. Thèse de doctorat, Université de Provence. (2011年, Paris, Edilivresより出版予定)
- Kida, Tsuyoshi (2005b). Effects of teacher's discourse on learners' discourse: A study of interaction in the second language classroom. In Alex Housen, Michel Pierrard (Eds.), *Investigations in instructed second language learning*. Berlin/New York, Mouton de Gruyter : 457-495.
- Kida, Tsuyoshi (2006). Définitions du geste. In Martine Faraco (Ed.), *La classe de langue : théories, méthodes, pratiques*. Aix-en-Provence, Publications de l'Université de Provence : 93-110.
- Kida, Tsuyoshi (2008). Does gesture aid discourse comprehension in second language? In Steve McCafferty, Gale Stam (Eds.), *Gesture. Second language acquisition and classroom research*. London/New York, Routledge : 131-156.
- Kida, Tsuyoshi, Faraco, Martine (2002). Gesto y iniciación de la interacción didáctica en L2. *deSignis*, 3 : 113-131.
- Kida, Tsuyoshi, Faraco, Martine (2003). Gestures in second language discourse: metacommunicative function and perlocution. In Monica Rector, Isabella Poggi, Nadine Trigo (Eds.), *Gestures: Meaning and use*. Porto (Portugal), Universidad Fernando Pessoa : 305-318.